

平成23年11月29日

雲南市議会議長 藤原政文 様

教育民生常任委員会
委員長 光谷由紀子

教育民生常任委員会視察研修報告

下記のとおり視察を行いましたので、その結果を報告します。

1. 日 時 平成23年10月24日（月）～25日（火）
2. 視察先 ①岡山県備前市 備前グリーンエネルギー株式会社
②岡山県真庭市 国民健康保健湯原温泉病院
③岡山県新見市 健康福祉センターげんき広場にいみ
3. 目 的 先進地視察
①市民参加による新エネルギーの取組みについて
②病院内での温泉を活用したリハビリ治療の取組みについて
③健康づくりと健康増進施設について
4. 参加者 【委員長】光谷由紀子 【副委員長】佐藤隆司
【委員】西村雄一郎、福島光浩、加藤欽也、細田 実、板持達夫
【議会事務局】川上順子統括主幹

①岡山県備前市 備前グリーンエネルギー株式会社

対応者 代表取締役社長 武本修一 様

(1) 備前まほろば協議会の取組み

平成17年～平成19年に環境省・環境と好循環のまちモデル事業をスタート。



(2) モデル事業の特徴

国のモデルとなるような地域発の創意工夫と幅広い主体の参加によって、二酸化炭素の排出削減などを通じた環境保全と、雇用創出等による経済活性化の実現をねらいとし、平成17年、平成18年で省エネ事業、木質ボイラー、木質ストーブ、太陽熱温水を補助対象として取り組まれました。平成19年では事業エリアを4市一町に拡大して太陽光発電に取り組まれている。

○パートナーシップ型環境公益的事業（地域協議会との新しいビジネスモデル）

○省エネルギー・太陽光発電サービス議業

○市民出資（環境エネルギー事業への市民からの出資〈全国〉）出資額10億8,800万円。396人。

(3) 備前グリーンエネルギー株式会社〈平成17年12月創業。社員10人〉

まほろば協議会の理念を受けた事業実施のための会社で、自然エネルギーや省エネルギー機器の導入に関する設計・施工、市民太陽光発電ステーション事業、市民出資の募集主体として匿名組合の設置を行っておられる。



補助事業終了後は、地域の新産業創出を位置づけとし、省エネ・ESCO事業、太陽光発電、バイオマス事業、調査研究事業、カーボンオフセット事業などのシンクタンク的なビジネスを展開中。中でも、全国的に自治体のエネルギービジョン作成に関わられている。

(4) 質問事項

○太陽光発電を設置する場合、民間企業との競合は。

会社が直接設置するのではなく設置は地元業者が行われている。

- まほろば協議会との連携は。
まほろば協議会の理念を受けて事業展開を行って連携している。
- 3. 11後の変化と影響は。
出て来ている。買い取り価格の面など。
- 再生可能エネルギーの課題、将来展望は。
将来性はある。その地域に適したエネルギーがある。メガソーラーは日照時間の問題がある。山陰は35%効率が落ちるのではないかと思う。
地熱、風力も考えられる。
- 事業展開としてペレット・薪ストーブ、ペレットボイラーの普及促進は。
ペレットストーブは長野県の温水施設で止められた。ランニングコストがかかる。バイオマス発電においてはチップの含水率に注意が必要と建築廃材が入ると大変問題が生じる。
- その他について
トップが替われば変わる。無いものねだりをしないで今あるものの活用を考えることと指摘された。また、高校、大学、大学院などの学生を巻き込む社会教育にも活動展開を図られている。

②岡山県真庭市国民健康保険湯原温泉病院

対応者 真庭市議会文教厚生常任委員長 柿本健治 様
真庭市議会事務局長 志田浩一 様
湯原温泉病院院長 野村修一 様

(1) 湯原温泉病院の歩み

昭和35年8月に20床。内科,外科の町立病院として開設。合併目前のH17年3月に移転新築し一般病棟50床、療養型病棟55床。内科、外科、整形外科、皮膚科、神経内科、リハビリテーション科の18科と5診療所を運営。医師14人（内正規4人）看護師52人（内正規44人）職員総数138人。

(2) 病院の特徴

病院内に温泉水を利用したプールを設置。



(3) 質問事項

- 医療と保健、介護の連携を図られた特徴ある病院の医療職の確保は。
温泉療法を取り入れたリハビリ部門は11人のスタッフを配置している。
- 温泉の湯を活かした医療と病院を併設された経緯は。
温泉療法は、腰痛、肩凝り、神経痛、リウマチ等に効果があり、運動浴槽での歩行と理学療法、物理療法と併せリハビリテーションに大きな効果を発揮している。湯原温泉の地の利を活かした病院作りを進めている。
また、アトピー性皮膚炎の治療、人間ドックと温泉旅館、ホテルと提携しセットした「湯けむりドック」1日10人等、温泉を利用した診療を行っている。
- 圏域外の患者は。
温泉を利用したプールでの水治療を含めたリハビリ目的、アトピー治療等県外からの患者を含め、外来・入院患者がいる。
- 温泉プール利用に水着への抵抗感は。
患者は自分で着替えが出来る方であるし、基本的にプールというスタンスのため抵抗はない。

(4) その他

- 病院建設の総事業費は39億2,761万6,000円。
- プールは加温をしていない。プールの建設費は8,478万円。
- 温泉の利用は湯冷めをしないので効果が大きい。
- 医師住宅、看護師住宅へも温泉を引いている。
- プールの一般の利用には健康運動指導士を配置している。



③岡山県新見市 健康福祉センター げんき広場にいみ

対応者 新見市福祉部健康づくり課課長 中山博文 様

新見市福祉部健康づくり課課長補佐兼健康支援係長 安松 潔 様

げんき広場にいみ指定管理者 RSC レイスポーツクラブ岡山

取締役 健康増進推進室 室長 吉田俊明 様

(1) 新見市健康増進計画の特徴

岡山健康21を受けて平成20～平成29年度策定。

(2) 質問事項

○「食育推進計画」、「母子保健計画」を含めて計画を策定された経過は。

地域性にあった健康づくりを進め、地域で継続的に同じ方向性の下に健康づくりを推進できる体制を作るために「食育推進計画」「母子保健計画」をふくめた。

○市民が自ら健康づくりを取り組むための具体策は。

毎年テーマを決めて推進の取組みをしている。平成20年は血圧、平成21年は歯・口腔、平成22年は身体、平成23年は糖尿病。乳幼児期、学童思春期、青壮年期、高齢期に毎日の生活に心がけたいことを明らかにし、目標項目を示している。

リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康と権利）

10代の人工中絶が増えている。性の大切さや豊かな性の確立ができるように正確で適切な知識を身につけるための啓発の推進。

保健師11人。4支所に4人。包括支援センター8人。栄養士5人。健康運動士1人。

○げんき広場にいみの建設経過と建設費、運営費は。

旧新見市で平成15年6月、設計、用地取得。平成16年入札、16億円で建設。平成17年10月完成し、レイスポーツ岡山に指定管理。

(3) 施設見学時のその他の質疑

○施設は、温水プール（昇降式床8コース、ウォーキング専用、幼児用）、ジャグジー、浴場、サウナ、トレーニングルーム、フィットネススタジオ、ラウンジ。

○指定管理者のレイスポーツ岡山は岡山市内で4箇所運営している。民間のノウハウで取り組んでいる。従業員は正規の職員。

○指定管理料は0円。75,000人の年間利用で経営はトントンである。

会員月額 5,775円。年額 63,525円。1回利用 1,050円。

65歳以上、高校生以下、障害者は割引あり。

○循環器系、整形外科的な疾病の方はリハビリプログラムを立てて指導。

○利用者は市内の方がほとんどである。

○プールの加温、床暖房、暖房の熱源は近隣工場からの余熱を利用している。

○子ども水泳教室は無料体験会を開催している。

